

<様式1>

令和7年度 江東区立第二亀戸小学校 自己評価表

校長名 飯川 浩二

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域1		学力の向上（あたまつくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	「こうとう学びスタンダード」の定着を児童全員達成できるよう、学年で確認し合った週予定表を毎週末に児童に配信する。授業計画等、週案で確実に管理を行う。	100	「こうとう学びスタンダード」の国語・算数・英語の定着度が4月の調査で全学年100%となる。(指標は第5学年を用いる)	76	B
2	どの教科でも「こどもに合わせた」「主体的・対話的な学び」を目指す授業改善を行う。個に応じて1人1台タブレット端末を効果的に活用する授業改善を行う。	98.0	「自分からすすんで学習した」と回答する児童が100%以上となる。「タブレットを活用する授業が楽しい」と回答する児童が100%となる	87 93	B
3	自然を感じ、自己表現力の育成と語彙力の向上を図るために俳句・読書の学習を計画通り実施し、年5回の学校俳句コンクールを開く。	100	「読書が好き」「俳句の学習が楽しい」と回答する児童が100%となる。	79 71	B

<結果についての分析と改善策>

- ・第5学年SD定着度調査結果より 国語75.2(72.4)、算数75.2(72.6)、英語95.1(93.6) いずれも区平均を超える結果である。※()は区平均
- ・ChallengeWednesday、ChallengeSummerをはじめ、自主学習が定着している児童が増えてきている。
- ・タブレットを活用する授業が日常化しつつあるが、デジタルとアナログを選択できるよう、より効率的な活用を模索している。
- ・学校図書館の利用状況が上がっている。
- ・読書・俳句の取組を計画通り実施し、朝会で受賞した児童を紹介するなど児童に意欲付けを図る。
- ・教科担任制(年間を通じた交換授業)では、特に英語学習に大きな成果があった。

重点領域2		体力の向上（からだつくり）（こころつくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	体育の授業では、コオーディネーショントレーニングを取り入れた「わくわくタイム」を毎時間行い、校内研究を通して体育授業の改善を図る。	96.0	「体育の授業が楽しい」と回答する児童が100%となる	91	B
2	体育的行事やオリパラ教育を計画通り実施する。	96.0	「体力向上の取組やオリンピック・パラリンピックの学習に自分なりに取り組めた」と回答する児童が100%となる。	83	B
3	食に関する指導の全体計画、保健指導の年間計画等に基づき、食育、保健指導を計画的に実施する。	100	「給食や保健の学習を通して自分の体や健康についてよく考えた」と回答する児童が100%となる。	84	B

<結果についての分析と改善策>

- ・校内研究を体育（運動領域は指定しない）とし、わくわくタイムをはじめ、めあてをもって学習に取り組ませる意識を高めている。学習をこどもに委ねる場面も増えており授業改善が進んできた。
- ・4・5月にコオーディネーショントレーニング研修を実施し、授業に活かしている。道徳授業地区公開講座においてもCOTを行う。
- ・体育的活動を計画的に実施している。
- ・5・6年生は江東区家庭料理検定を全員が受験するなど、食育を計画的に実施する。

<様式1>

重点領域3		豊かな心の育成（こころつくり）（なかまつくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	4つの「あ」（あいさつ、あつまり、あんぜん、あとしまつ）の徹底を、教員自ら手本を示すなど具体的な取組を行う。	100	「自分から進んで元気においさつすることができた」と回答する児童が100%となる。	89	B
2	二亜小のきまりや月目標、学び方スタンダード定着のために、定期的な振り返りなどの取組を計画的に実施する。	100	「学び方スタンダードをはじめとする二亜小のきまりを守ることができた」と回答する児童が100%となる。	92	B
3	ともだちアンケートを年3回に実施し、いじめの早期発見に努める。「いじめは絶対に許さない」取組を特別の教科道徳を中心に全学級年間3回以上行う。	100	「いじめは絶対にしてはいけない」と回答する児童が100%となる。	98	B

<結果についての分析と改善策>

- ・児童調査では「あいさつ」は中間よりも向上した。各学級でこども主体の取組を継続して実施していく。校長講話でも積極的に取り扱う。
- ・学び方スタンダードの自己評価と定着度には開きがある。引き続き徹底していく。
- ・「ともだちアンケート」をはじめ、いじめ早期発見、早期対応に努める。
- ・いじめ対策委員会を計画的に開催し、いじめ防止授業をはじめ未然防止、早期発見、早期対応、解消後の見守りについて引き続き組織的に実施していく。
- ・「よつばルーム」のさらなる効果的な活用を検討していく。

重点領域4		なかま・地域とともに歩む学校（なかまつくり）			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	学習や学校生活の情報を積極的に発信し、個人面談・保護者会等で意見を交流し、保護者や地域からの理解と信頼を深める。情報発信ではペーパーレス化を推進する。	100	保護者アンケートで「学校は積極的に情報発信をしている」と回答する保護者が100%となる。	95	B
2	にこにこタイム（異学年交流）や、併設幼稚園等を活用した異校種交流、グループ活動、ペア活動などを意図的・計画的に実施する。教員も併設幼稚園参観を年1回以上行う。	100	「にこにこタイム（異学年交流）や異校種交流、グループ活動が楽しい」と回答する児童が100%となる。	95	B
3	コミュニティスクール化へ向けて、地域学校協働本部等、地域施設や人材を有効に活用するなど、学習、行事、いじめ対応など各種学校運営を、保護者、地域、外部機関等と協働してすすめる。	100	保護者アンケートで「学校は保護者や地域等と協働して学校運営を行っている」と回答する保護者が100%となる。	92	B

<結果についての分析と改善策>

- ・すぐーる等によるペーパーレス化を推進している。
- ・全学級で毎週末に週予定表を配布し学習予定や持ち物、宿題など児童や保護者に見通しをもってもらう工夫をしている。
- ・保護者アンケートなど今後もオンラインの活用をしていく。
- ・展覧会など、こども主体の取組を増やしている。
- ・各種行事や異学年交流、縦割り範囲活動など継続して実施していく。
- ・今後もホームページを定期的に更新する。
- ・コミュニティスクールは令和8年度開始する。
- ・3月までに「こども教育目標」の策定を行い、令和8年度の最上位目標とする。

【評語】成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A:90%以上（※本校は100%で目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B:50%以上90%未満

C:50%未満（目標や努力指標等を見直す）